

専門分野 II

成 人 看 護 學

| 授業科目 成人看護学総論 | 担当講師名 轟木 昭子 (14H) 中村 弘美 (16H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 1 年次 |
|---|---|---|--------------|
| 学習目標 (ねらい) | | | |
| <p>1. 成人期における対象の発達段階・発達課題及び発達の特徴をとらえ成人期の健康についての視点から多面的・包括的に理解する。</p> <p>2. 成人期の対象のセルフケア行動の促進、成人が危機を乗り越える過程とその支援のためのアプローチについて理解する。</p> <p>3. 成人の健康レベルに応じた健康の保持増進・疾病の予防・回復に向けた看護の役割について理解する。</p> <p>4. 主体的療養行動を促すための看護について理解する。</p> | | | |
| 回 数 | 單 元 | 学習内 容・方 法 | |
| 1 ~ 4 | 1. 成人の生活と健康 | 1) 成人と生活、大人の生活、大人の学習 2) 生活と健康 3) 保健・医療・福祉システム | |
| 5 ~ 7 | 2. 成人への看護アプローチの基本 | 1) 健康行動を生みはぐくむ援助 2) 看護におけるマネジメント 3) 集団・チームにおけるアプローチ 4) 意思決定支援、家族支援 | |
| 8 ~ 10 | 3. 成人の健康レベルに対応した看護 | 1) 成人期のヘルスプロモーションと看護 2) 健康を脅かす要因と看護 | |
| 11 ~ 14 | 4. 成人の健康生活を促すための看護 5. 変化する医療、生活環境に対応した看護 | 1) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2) 治癒過程にある患者の看護 1) 療養の場を移行する人々への看護技術 | |
| 15 | 6. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 筆記試験 課題提出・達成度の状況 | | 成人看護学総論 国民衛生の動向 | 医学書院 |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | |
| 備 考 | | | |

| | | | |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------------|--------------|
| 授業科目 成人看護学方法論 I | 担当講師名 中村弘美 (16H) 川田正輝 (14H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 1 年次 |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------------|--------------|

学習目標 (ねらい)

1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の看護を理解する。

| 回 数 | 単 元 | 学習 内 容・方 法 |
|---------------------------------|------------------------------------|---|
| 1～5 | 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の看護 演習 | 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の看護 1)慢性の経過をたどる疾患と対象の特徴 ①対象の経験する無力感 ②病みの軌跡 2)慢性病との共存の過程を支える看護 ①セルフマネジメントの支援 3)社会生活継続への援助 ①療養の場の移行支援 |
| 6～8 | 2. 生体の恒常性を維持する物質の流通障害のある対象の看護 | 1. 血液・造血器に障害のある対象の看護 1)対象の身体的・心理・社会的特徴 2)貧血・出血傾向・白血病患者の看護 |
| 9～11 | 3. 生体の恒常性を維持する調節機構障害のある対象の看護 演習 | 1. 内分泌・代謝障害のある対象の看護 1)対象の身体的・心理・社会的特徴 2)糖尿病患者の特徴 3)自己血糖測定 (演習) |
| 12～14 | 4. 「排尿すること」に障害のある対象の看護 | 1. 腎泌尿器系に障害がある対象の看護 1)対象の身体的・心理・社会的特徴 2)慢性糸球体腎炎患者の看護 |
| 15 | 1. 終講試験及び振り返り | 終講試験 学習のまとめ |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 |
| 筆記試験 課題提出状況 | | 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 成人看護学[6] 内分泌・代謝疾患 医学書院 成人看護学[8] 腎・泌尿器代謝疾患 医学書院 成人看護学総論 医学書院 成人看護学 セルフマネジメント メディカ出版 プリント |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | |
| 備 考 | | |

| 授業科目 成人看護学方法論 II | 担当講師名 轟木 昭子 (10H) 非常勤講師 (10H) 非常勤講師 (10H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|--------------------------|---|--|--------------|--|--|
| 学習目標 (ねらい) | | | | | |
| 1. 生活行動に障害のある対象の看護を理解する。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 4 | 1. 生活行動に障害のある対象の看護 | 1. 障害がある人の生活とリハビリテーション 1) 障害がある人とリハビリテーション 2) 障害がある人とその生活を支援する看護 (1) 障害がある人とその生活を支援する看護の特徴 (2) 看護の実際 | | | |
| 5 ~ 9 | 2. 「動く」ことに障害のある対象の看護 | 1. 援助のための主な知識と技術 2. 症状に対する看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 保存療法を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護 6. 経過に応じた患者の看護 7. 疾患を持つ患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護 2) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 3) 腰痛症患者の看護 4) 脊髄損傷患者の看護 | | | |
| 10 ~ 14 | 3. 循環障害にある対象の看護 | 1. 生体の恒常性を維持する物質の流通障害のある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 対象への看護 3) 不整脈・下肢動脈塞栓症・心不全患者の看護 | | | |
| 15 | 4. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | テキスト・参考書等 | | | | |
| 筆記試験 課題提出状況 | 成人看護学総論[1] 医学書院 成人看護学[3] 循環器 医学書院 成人看護学[10] 運動器リハビリテーション看護 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 | | | | |
| 実務経験 | 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 成人看護学方法論III | 担当講師名 中村 弘美 (12H) 轟木 昭子 (8H) 非常勤講師 (10H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|--|---|--|--------------|--|--|
| 学習目標 (ねらい) | | | | | |
| <p>1. 治癒困難な対象の看護を理解する。</p> <p>2. 感染により障害をうけた対象の看護を理解できる。</p> | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 4 | 1. 治癒困難な対象の看護 | 1. 治癒困難な対象の看護 1) 治癒困難な対象の理解 2) 対象への看護 3) 家族への援助 2. 人生最期のときを支える看護 1) 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 (1) エンドオブライフケア (2) アドバンスケアプランニング (3) 臨死期の看取り | | | |
| 5 ~ 9 | 2. 「息をする」ことに障害がある対象の看護 | 1. 呼吸器系に障害のある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 対象への看護 3) 看護技術 (胸腔ドレナージ・非侵襲的陽圧換気等) 4) 肺癌患者の看護 5) 慢性呼吸不全患者の看護 | | | |
| 10~14 | 3. 感染により障害をうけた対象の看護 | 1. 感染により障害をうけた対象の看護 1) 感染とは 2) 対象の特徴 3) 対象への看護 4) ウィルス性肝炎患者の看護 5) AIDS患者の看護 2. 倫理的態度 • 偏見、差別防止 • 歴史的事実 | | | |
| 15 | 4. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 課題提出状況 | | 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 成人看護学総論 医学書院 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 成人看護学方法論IV | 担当講師名 蘿木 昭子 (14 H) 廣森五十鈴 (4 H) 西 裕美 (4 H) 橋口 美和子 (4 H) 非常勤講師 (4 H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|---|---|--|--------------|--|--|
| 学習目標 (ねらい) | | | | | |
| 1. 生命危機状態にある対象の看護を理解する。 2. 身体の一部を喪失する対象の看護を理解する。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 2 | 1. 生命危機状態にある対象の看護演習 | 1. 生命の危機状態にある対象の看護 1) 生命危機状態とは 2) 対象及び家族の理解 3) 対象への看護 2. 生体の恒常性を維持する物質の流通障害のある対象<虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)>の看護 1) 対象の特徴 2) 虚血性心疾患者の看護 3. 生体の恒常性を維持する調節機構障害(脳梗塞)にある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 脳血管疾患者の看護 | | | |
| 3 ~ 4 | | | | | |
| 5 ~ 6 | | | | | |
| 7 ~ 8 | 2. 身体の一部を喪失する対象の看護 | 1. 身体の一部を喪失する対象の看護 1) 周手術期の看護 2) ボディイメージの変化に対応する看護 3) 対象及び家族の理解 4) 対象への看護 2. 「食べること」に障害がある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 「食べること」に障害がある対象への看護 3. 「話すこと」に障害がある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 喉頭摘出を受ける対象への看護 4. 「女性の生殖に関する機構」に障害のある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 「女性の生殖に関する機構」に障害のある対象への看護 | | | |
| 9 ~ 10 | | | | | |
| 11 ~ 12 | | | | | |
| 13 ~ 14 | | | | | |
| 15 | 3. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 課題提出状況 | | 成人看護学[5] 消化器 [3] 循環器 成人看護学[7] 脳・神経 [14] 耳鼻咽喉 成人看護学[9] 女性生殖器 成人看護総論 臨床外科総論 | | | |
| | | 医学書院 医学書院 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 成人看護学方法論V | 担当講師名 轟木 昭子 (14H) 中村 弘美 (16H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|--|-------------------------------------|--|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 成人期にある健康状況に応じた看護の展開ができる。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 7 | 1. 慢性期における事例展開演習 | 1) 臨床判断 2) セルフケアに向けたアセスメント 3) アセスメントに基づいた計画の立案 4) サマリー 方法 1) 事例の看護過程を各自で展開する。 2) グループワーク 3) ディスカッション 4) 総括 | | | |
| 8 ~ 14 | 2. 急性期における事例展開演習 | 1) 事例における観察とアセスメント | | | |
| 15 | 3. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 課題提出状況（期限厳守） 課題達成度 | | 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 廣川出版 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | | |
| 備 考 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護過程の進度の中で適宜課題提出をしていきます。 ・ 基礎看護学・看護過程での学びを復習して臨みましょう。 | | | | | |

| 授業科目 成人看護学実習Ⅰ | 担当講師名 担当教員 1人/1G | 単位数 2単位 時間数 90時間 | 対象学年 2年次 |
|------------------|-------------------------|---|--|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| | | | 成人各期にある対象の発達段階の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防と回復の重要性を理解し、健康レベルに応じた看護が実践でき基礎的知識・技術・態度を習得できる。 |
| 回 数 | 单 元 | 学習内 容・方 法 | |
| | 臨地実習 1. 病院 | 1. 1) 生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の看護 2) 生活行動に障害のある対象の看護 * 1、2) の中から1事例の対象を受け持ち以下のように展開する。 2. 受け持ち対象の発達段階の特徴や病態理解につなげるための事前学習を行う。 3. セルフケア、日常生活行動の拡大に焦点を当て看護過程を展開する。 | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 実習評価表に基づく評価 | | 成人看護学実習要項 関連する文献 | |
| 実務経験 | 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う | | |
| 備 考 | | | |

| 授業科目 成人看護学実習Ⅱ | 担当講師名 担当教員 1人/1G | 単位数 4 単位 時間数 180 時間 | 対象学年 3 年次 |
|------------------------------|---------------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| | | | 成人各期にある対象の発達段階の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防と回復の重要性を理解し、健康レベルに応じた看護が実践でき基礎的知識・技術・態度を習得できる。 |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容・方 法 | |
| | 臨地実習 1. 病院 | <p>1. 1) 治癒困難にある対象の看護 2) 身体の一部を喪失する対象あるいは喪失した対象の看護 3) 生命危機状態にある対象の看護 4) 成人看護学実習Ⅰで未実習の対象の看護（生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の看護、生活行動に障害のある対象の看護）</p> <p>* 1、2)、3)、4) の中から対象を受け持ち以下のように展開する</p> <p>2. 受け持ち対象の発達段階の特徴や病態理解につなげるための事前学習を行う</p> <p>3. セルフケア、日常生活行動の拡大に焦点を当て看護過程を展開する。</p> | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 実習評価表に基づく評価 | | 成人看護学実習要項 関連する文献 | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う | | | |
| 備 考 | | | |

老 年 看 護 学

| 授業科目 老年看護学概論 | 担当講師名 池田 すがよ | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 1 年次 |
|--|------------------|---|--------------------------------|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| 1. 老年看護の基本となる概念について理解できる。 2. 老年期における対象の特徴を理解できる。 3. 老年看護の機能と役割を理解できる。 4. 社会構造の変化や高齢化に伴う老年者の保健・医療・福祉の問題に対する理解を深めることができる。 | | | |
| 回 数 | 單 元 | 学習 内 容・方 法 | |
| 1 ~ 3 | 1. 老年看護学の基本となる概念 | 1. 老年看護学の基本 1) 老年期の発達・変化 2) 老年期を生きる対象の特徴 (1)加齢と老化 (2)身体的側面の変化 (3)心理的側面の変化 (4)高齢者の機能と評価 ・ADL・IADL・ICF・CGA・寝たきり度判定基準 (障害高齢者・認知症高齢者) (5)生涯発達の考え方 (6)高齢者擬似体験による対象理解 3) 対象の加齢に伴う生活の理解 4) 老いを生きるということ (1)老年期とは (2)高齢者の発達課題 (3)老いを生きる人々へのまなざし | |
| 4 ~ 6 | 演習 | 2. 超高齢社会と社会保障 3. 老年者のニーズに最適な制度活用が支援できる、保健・医療・福祉サービスの構成とサービスの特徴 4. 老年看護の成り立ち | |
| 7 ~ 14 | | 2. 超高齢社会と社会保障 1) 高齢社会の統計的輪郭 2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 ・リロケーション・多職種連携 ・地域包括ケアシステム 3) 高齢社会における権利擁護 ・アドボカシー・差別虐待の防止・身体拘束 ・意思決定支援 3. 老年看護の基盤 1) 老年看護の成り立ち 2) 老年看護の役割 ・獲得体験、喪失体験・サクセスフルエイジング ・エンパワーメント・ストレングスマネジメント ・ライフレビュー・コンフォート理論など 3) 老年看護に携わる者の責務 | |
| 15 | 終講試験及び振り返り | 1. 終講試験・学習のまとめ | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| レポート提出 | 筆記試験 | 課題達成度 | 老年看護学 老年看護病態・疾患論 国民衛生の動向 |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | |
| 備 考 ・関係法規、社会保障制度については、事前に学習しておきましょう。 ・グループワークでは、主体的に取り組みましょう。 ・社会の情報に关心を持ち、高齢者の課題など現状把握をしましょう。 | | | |

| 授業科目 老年看護学方法論 I | 担当講師名 上稻葉 正紀 | 単位数 1 単位 時間数 15 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|----------------------------------|--|--|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 高齢者の日常生活の変化と生活機能を整える看護の展開を学ぶ。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 | 1. 高齢者の日常生活を支える基本的活動 | 1. 基本的動作と環境のアセスメントと看護 ・日常生活動作 ・日常生活活動の評価指標を用いたアセスメント | | | |
| 2 | | 2. 転倒のアセスメントと看護 演習：杖歩行 | | | |
| 3 | | 3. 廃用症候群のアセスメントと看護 | | | |
| 4 | 2. 自立生活への拡大と援助 演習 | 1. 食事・食生活 ・高齢者に特徴的な変調 ・嚥下・摂食機能のアセスメント ・演習：口腔ケア、義歯の取り扱い方法の実際 | | | |
| 5 | | 2. 排泄 ・排泄の障害、パターンの変調のアセスメント 演習：オムツ体験、陰部洗浄 | | | |
| 6 | | 3. 清潔 ・高齢者に特徴的な変調 ・清潔のアセスメントと看護 | | | |
| 7 | 3. 生活リズムを整える看護 | 1. 生活リズムのアセスメントと看護 ・高齢者に特徴的な変調 ・睡眠の評価、睡眠・覚醒パターン、環境調整 ・睡眠薬の用い方と注意点 | | | |
| 8 | 終講試験、まとめ | | | | |
| 評価方法 | テキスト・参考書等 | | | | |
| 筆記試験 課題達成度 | 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医学書院 医学書院 | | | | |
| 実務経験 | 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | |
| 備 考 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義の前には必ずテキストを読んでおきましょう。 ・主体的学習態度を身につけましょう。 | | | | |

| 授業科目 老年看護学方法論 II | 担当講師名 上稲葉正紀 (12H) 中田 博光 (18H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|--|-------------------------------------|---|--------------|--|--|
| 学習目標 (ねらい) | | | | | |
| 1、健康障害を持つ老年者の特徴と援助方法を理解した上で老年者に多い症状・状態に応じた看護、治療・処置を受ける老年者の看護、終末期における老年者の看護を学ぶ。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 4 | 1. 老年者の主要徴候・治療に焦点をあてた看護 | 1. 老年者によく見られる身体症状とアセスメント 発熱、痛み、搔痒、脱水、嘔吐 浮腫、倦怠感 2. コミュニケーションと看護ケア 難聴、失語症、構音障害 3. 検査・治療を受ける老年者への看護 1) 検査と看護 2) 栄養ケア・マネジメント 3) 薬物療法と看護 4) 手術療法と看護 | | | |
| 5 ~ 6 | | | | | |
| 7 ~ 14 | 2. 健康障害のある老年者に必要な看護 | 1. 疾患を持つ老年者への看護 脳卒中、心不全、パーキンソン病 インフルエンザ、肺炎、ノロウイルス 骨粗鬆症、骨折、褥瘡 2. 認知機能障害に対する看護 うつ、せん妄、認知症 3. 終末期における終末期ケア | | | |
| | 3. 各施設における看護ケアと老年者を介護する家族の支援 | 1. 在宅・施設におけるケア 1) 保健医療福祉施設における看護 2) 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 | | | |
| 15 | 終講試験 | まとめと試験 | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 | | 老年看護学 医学書院 老年看護病態・疾患論 医学書院 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 老年看護学方法論III | 担当講師名 池田 すがよ | 単位数 1 単位 時間数 15 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|--|---|--|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 高齢者の特徴を踏まえ生活機能の観点から事例による看護が展開できる。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 2 | 1. 老年期の特徴を踏まえた情報の整理 | 1. 生活活動モデル・目標志向型思考への転換 1) 加齢の変化 2) 今までの日常生活状況 生活習慣 3) 身体機能・予備力・(運動・生理機能) 4) 家族背景・役割 5) 値値観・健康の認識 6) 心理状況 7) 知覚・認知・コミュニケーション能力 | | | |
| 3 ~ 4 | 2. 高齢者の特徴をいかしたアセスメントと健康上の課題及び看護目標・関連因子・影響因子・変化因子の確認 | 2. 高齢者の特徴を生かしたアセスメント 1) 加齢変化及び疾患の日常生活活動への影響 2) 本人の認知・理解の程度 3) 家族の介護状況 4) 二次障害・合併症の危険性 | | | |
| 5 ~ 7 | 3. 事例による看護展開演習 | 3. 看護計画 1) 日常生活の自立能力を高める計画 2) 活動体制を考慮した計画 3) 二次障害の予防 4) 介護家族への支援計画 5) 社会資源の活用 6) 多職種との連携 状況設定事例のアセスメント | | | |
| 8 | まとめと筆記試験 | 1. 終講試験・学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 主体的な取り組み状況 (グループワークの参加状況) | | 老年看護学 医学書院 老年看護病態・疾患論 医学書院 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 廣川出版 | | | |
| 課題達成度 提出物状況 | | | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | | |
| 備 考 ・ 高齢者の健康障害に視点を持ち、自立に向けて援助を考えていきます。 ・ 事例の病態や症状は、成人看護学で学んだことを学習して臨みましょう。 | | | | | |

| 授業科目 老年看護学実習 I | 担当講師名 担当教員 1人/1G | 単位数 2 単位 時間数 90 時間 | 対象学年 2年次後期 | | |
|---|--|---|---------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 地域・施設において、対象の特徴を理解し日常生活機能の程度に応じた援助を学ぶ。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| | <p>臨地実習 <地域></p> <p>1. 社会福祉施設 2. 鹿児島市谷山北公民館 3. 実践外活動</p> <ul style="list-style-type: none"> • ロールプレイ • 事例演習 <p><施設></p> <p>1.介護老人保健施設 2.介護老人福祉施設</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生きてきた時代、社会参加状況から生活を理解する <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活背景を知る 2) 生活習慣を知る 3) 社会状況（家族関係・対人関係・経済力） 2. 外観、活動の観察を通して健康観を知る <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化の過程 (外観上の変化・運動機能・感覚機能など) 2) 生活状態の把握 3. 対象の特性を踏まえてコミュニケーションを図る <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の余暇や楽しみの理解、生きがいを知る 4. 老人福祉施設及び介護保険法に基づく施設の特徴を知る 5. 施設で生活している事例の状況に応じた援助の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴の把握 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の特徴 2) 一般状態の観察を行い身体的状況の把握 3) 入浴介助・レクリエーションなどへの援助を通しての対象理解 2. 対象の自立をめざした日常生活の援助の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設で計画してあるケアプランをもとに日常生活の援助を実施 2) 対象の楽しみ・生きがい 3. 保健・医療・福祉チームメンバーの職種の役割および連携の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会資源についての学習 2) 多職種との連携 | | | |
| 評価方法 | テキスト・参考書等 | | | | |
| 実習評価表に基づいて評価する | 老年看護実習要項 関連する文献 | | | | |
| 実務経験 | 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| | | | |
|--------------------|-------------------|---------------------|---------------|
| 授業科目 老年看護学実習 II | 担当講 担当教員 1人/1G | 単位数 2単位 時間数 90時間 | 対象学年 2年次後期 |
|--------------------|-------------------|---------------------|---------------|

学習目標（ねらい）

1. 老年期にある対象の老化の特徴と健康レベルに応じた援助に必要な基礎知識・技術・態度を学ぶ。また、保健・医療・福祉の調整を理解し看護職の役割を学ぶ。

| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 |
|----------------|---------------|---|
| | 臨地実習 1. 病院 | 1. 老年期にある対象の理解 1) 老年期の特徴を情報や一般的な特徴を基に発達段階、生活過程の視点で捉える 2) 加齢に伴う身体の変化の理解と観察 3) 病態像・対象の疾患をめぐる特徴 4) 入院前の生活習慣の把握 5) 生活史から個別性を見出す 2. 対象の健康上の問題を把握し、QOLを高めるための援助 1) 日常生活動作の自立のためのアセスメント 2) 対象の状態に応じて必要な看護技術を実施 3. 生活機能の変化と健康障害に対する家族支援の態度 1) 家族が抱える問題を把握し、その問題に応じた看護の必要性を考える 4. 社会資源の実際、保健・医療・福祉の役割・連携の重要性 1) 必要な社会資源の選択方法 2) 対象の状態、家庭環境の変化 5. 対象の生活信条・価値観を尊重した行動 1) コミュニケーション技法 2) 生きがいへの支援 |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 |
| 実習評価表に基づいて評価する | | 老年看護学実習要項 関連する文献 |
| 実務経験 | | 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う |
| 備 考 | | |

小兒看護學

| 授業科目 小児看護学概論 | 担当講師名 廣森五十鈴（16H） 中山 孝子（14H） | 単位数 1単位 時間数 30時間 | 対象学年 1 年次 | | |
|--|-----------------------------------|--|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 小児看護の変遷を知り小児看護の概念を理解する。 2. 小児看護の対象を理解し、小児看護の役割を学ぶ。 3. 小児を取り巻く社会情勢や疾病の構造の変化と小児看護の課題について学ぶ。 4. 小児保健・医療・福祉の動向と小児をめぐる法律や保健対策を理解する。 5. 小児の成長発達の関わる知識を学ぶ。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容・方 法 | | | |
| 1 | 1. 小児看護の概念 | 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 | | | |
| 2～3 | 2. 小児看護の変遷 | 1) 小児の特徴 2) 児童観、諸外国と我が国の児童数 3) 小児看護における倫理 | | | |
| 4～8 | 3. 小児保健の統計と法律や保健対策 | 1) 小児をめぐる諸統計 2) 小児をめぐる法律と政策 3) 乳幼児の健康診査と健康に関する指導 4) 予防接種 5) 学校保健 | | | |
| 9～10 | 4. 小児看護の課題 | 1) 疾病構造の変化と小児看護 2) 社会の変化と小児看護 | | | |
| 11～14 | 5. 小児の成長・発達 | 1) 成長・発達とは 2) 成長の評価 3) 発達の評価 4) ライフサイクルからみた発達課題 5) 小児看護で用いられる理論 | | | |
| 15 | 6. 振り返り及び終講試験 | 1) 学習のまとめ 2) 終講試験 | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 | | 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 | | | |
| 課題レポート | | 小児臨床看護各論 医学書院 | | | |
| 課題提出状況 | | 国民衛生の動向 | | | |
| 課題達成度 | | | | | |
| 実務経験 | 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 小児看護学方法論 I | 担当講師名 中山 孝子 | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|--|---------------------|--|--------------|--|--|
| 学習目標 (ねらい) | | | | | |
| 1. 成長発達の概念をふまえ、小児を形態的・機能的・精神機能的視点より理解する。 2. 小児をめぐる栄養の特徴と重要性を理解する。 3. 小児各期の特徴を理解し、健康な小児の日常生活に必要な援助を学ぶ。 4. 現代社会における小児の諸問題を学ぶ。 5. 小児に必要な看護技術や身体的アセスメントについて学ぶ。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 3 | 1. 小児各期の成長・発達 | 1) 成長・発達論 2) 形態的成長 3) 機能的発達 4) 精神・運動機能の発達 | | | |
| 4 ~ 5 | 2. 小児の栄養 | 1) 小児の栄養の特徴と重要性 2) 乳児の栄養 3) 離乳期の栄養 4) 幼児・学童期の栄養 5) 思春期の栄養 | | | |
| 6 ~ 10 | 3. 健康な小児の日常生活 | 1) 新生児期の養護と看護・育児支援 2) 乳幼児期の養護と生活指導 3) 愛着形成・情緒・社会的機能 4) 遊びの意義と支援 5) 学童期の生活・学習及び養育と看護 6) 思春期・青年期の特徴と看護 7) 各期のコミュニケーション機能 | | | |
| 11 ~ 12 | 4. 現代社会における小児の諸問題 | 1) 現代社会における小児保健の重要性 2) 母親の就業と育児 3) 心の健康と育児環境 (虐待・不登校・いじめ) | | | |
| 13 ~ 14 | 5. 小児に特有な看護技術 演習 | 1) アセスメントに必要な技術 (理論・DVD) 2) 身体的アセスメント | | | |
| 15 | 6. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 課題レポート | | 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 小児臨床看護学各論 医学書院 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 小児看護学方法論 II | 担当講師名 廣森 五十鈴 | 単位数 2 単位 時間数 45時間 | 対象学年 2 年次 |
|---|--|--|--------------|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| 1. 健康障害が小児に及ぼす影響を知り、小児と家族を含めた看護について理解する。 2. 疾病の経過に伴う小児の身体的・心理的・社会的特徴と看護について理解する。 3. 成長発達過程を考慮した基礎的看護技術を習得できる。 4. 小児の特徴をふまえた事例による看護の展開ができる。 | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習内 容 ・ 方 法 | |
| 1～2 | 1. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響 2. 外来における小児の看護 3. 入院における小児の看護 | 1) 健康を障害された小児の理解 (1)健康障害によりおこる身体・心理・社会的影響 (2)子どもの健康障害による家族への影響 1) 外来における小児と家族の看護 (1)外来における小児 (プレパレーションの概要・演習) (2)外来における小児と母親の看護 1) 入院における小児と家族の看護 (1)入院を必要とする小児 (2)入院時の看護 | |
| 3～10 | 4. 小児におこりやすい症状と看護 5. 小児に特有な看護技術 演習 6. 小児の主な検査・処置 | 1) 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・発熱・嘔吐 下痢・脱水・痙攣・発疹 1) 小児のフィジカルアセスメント演習 1) 検査・処置を必要とする小児と家族の看護 | |
| 11～17 | 7. 疾病の経過に伴う小児と看護 8. 健康障害を持つ小児の生活と看護 9. 障害のある小児と家族の看護 | 1) 急性期にある小児と家族の看護 2) 慢性期にある小児と家族の看護 3) 周手術期にある小児と家族の看護 4) 終末期にある小児と家族の看護 1) 生活制限のある小児と家族の看護 2) 在宅療養を行う小児と家族の特徴と看護 1) 障害のとらえ方 2) 障害のある小児と家族の特徴 3) 障害のある小児と家族の社会的支援 | |
| 18～22 | 10. 子どもの虐待と看護 11. 事例による看護展開 演習 | 1) リスク要因と発生予防、早期発見、求められるケア 1) 状況設定事例のアセスメント | |
| 23 | 12. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 筆記試験 課題提出状況 課題達成度 課題レポート | | 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 小児臨床看護学各論 医学書院 | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | |
| 備 考 | | | |

| 授業科目 小児看護学実習 | 担当講師名 担当教員1人/1G | 単位数 2 単位 時間数 90 時間 | 対象学年 3 年次 | | |
|---|--------------------|---|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1 小児各期の成長・発達を理解し、対象を総合的にとらえる。 2 小児とその家族とのよい人間関係を築いていくことの重要性を学ぶ。 3 小児及び家族の健康問題を明確にし、解決に向けての援助ができる。 4 小児とその家族との関わりの中で、保健・医療・福祉チームの役割と連携を理解する。 5 健全な子ども観を養う。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| | 保育園実習 | 1 健康な乳幼児の特徴を理解し成長・発達に応じた援助を学ぶ。 1) 小児の成長・発達の特徴を観察しながら、施設の教育計画に基づき関わる。 2) 小児のコミュニケーションの特徴を理解し、遊びや活動と共にを行う。 3) 基本的生活習慣の確立（しつけ）に向けての援助を行う。 4) 安全な保育環境を知る。 | | | |
| | 小児科病棟 医療福祉センター | 2 健康障害を持つ小児とその家族を理解し成長・発達、健康レベルに応じた看護を実践する。 1) 小児の成長・発達段階を理解し、病態をアセスメントする。 2) 必要な援助を実施・評価する。 3) 疾病・入院が小児や家族に及ぼす影響について理解する。 4) 家族システムで小児を捉え、良い関係性を築く。 5) 病棟における小児の安全を守るための援助を学ぶ。 6) 保健・医療・福祉チームの役割と連携を理解し、小児保健対策を知る。 7) 障害児を取り巻く環境を知り、療育の在り方を、学ぶ。 8) あらゆる小児の理解を深め健全な子ども観を養う。 | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 実習評価表、実習レポートに基づいて総合的に評価する | | 小児看護学実習要項 関連する文献 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

母 性 看 護 学

| | | | |
|-----------------|---------------|-----------------------|--------------|
| 授業科目 母性看護学概論 | 担当講師名 櫻木 恵 | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 1 年次 |
|-----------------|---------------|-----------------------|--------------|

学習目標（ねらい）

1. 母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の役割について理解できる。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解できる。
3. 母性看護の対象の生物学的、心理・社会的側面について理解できる。
4. 女性のライフステージ各期における看護について理解できる。
5. リプロダクティブヘルスケアについて理解できる。

| 回 数 | 单 元 | 学習内 容 ・ 方 法 |
|------------------------------|-------------------------------|---|
| 1～2 | 1. 母性看護の基盤となる概念 | 1) 母性看護の中心概念 2) 母性看護実践を支える概念 |
| 3～4 | 2. リプロダクティブヘルスに関する概念 | 1) リプロダクティブヘルス/ライフ 2) セクシュアリティとジェンダー 3) ヒトの発生・性分化のメカニズム 4) 性分化疾患・性意識の発達・性同一性障害 |
| 5～7 | 3. リプロダクティブヘルスに関する動向・法や施策と支援 | 1) 出生・死亡・家族形成に関する統計 2) 子どもと女性の保護に関する法律 3) 女性の就労に関する法律 4) 子育て支援に関する法律 5) 暴力・虐待の防止に関する法律と支援 6) 周産期医療システム |
| 8～9 | 4. リプロダクティブヘルスに関する倫理・倫理的課題の実際 | 1) 母性看護実践における倫理的・法的・社会的課題 2) 人工妊娠中絶に関する現況、倫理的・法的・社会的課題 3) 出生前診断・生殖補助医療に関する現況、倫理的・法的・社会的課題 |
| 10～12 | 5. 女性のライフステージ各期における看護 | 1) 女性生殖器・男性生殖器 2) 第二次性徴 3) 性周期・妊娠のメカニズム 4) 性行動・性反応 5) 月経異常・性感染症・女性生殖器の腫瘍 |
| 13～14 | | 1) 更年期女性の特徴・健康問題と看護 2) 老年期女性の特徴・健康問題と看護 |
| 15 | 6. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 |
| 筆記試験 | | 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | |
| 備 考 | | |

| 授業科目 母性看護学方法論 I | 担当講師名 大村 祥恵 (16H) 福元 奈菜 (14H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 |
|---|-------------------------------------|---|--------------|
| 学習目標 (ねらい) | | | |
| 1. 「妊娠を継続する」対象の看護を理解できる。 2. 「出産する」対象の看護を理解できる。 | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | |
| 1 ~ 8 | 1. 「妊娠を継続する」対象の看護 | 1) 妊娠期における看護師の役割 2) 妊婦の生理 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 5) 妊娠期健康維持のためのセルフマネジメント 6) 出産と子育て準備のための看護 | |
| 9 ~ 14 | 2. 「出産する」対象の看護 | 1) 分娩期における看護師の役割 2) 分娩の生理 3) 産婦と胎児のアセスメント 4) 産婦のニーズと看護 5) 産婦と家族の心理 | |
| 15 | 3. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 筆記試験 | | 母性看護学概論 | 医学書院 |
| | | 母性看護学各論 | 医学書院 |
| 実務経験 助産師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | |
| 備 考 | | | |

| 授業科目 母性看護学方法論Ⅱ | 担当講師名 福元 奈菜 | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|---|--|--|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 「非妊娠時（妊娠前）の身体に戻る」対象の看護を理解できる。 2. 「子どもが育つ」の対象の看護が理解できる。 3. 「子どもを産む」「子どもが育つ」対象の看護技術を習得できる。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1～3 | 1. 「非妊娠時（妊娠前）の身体に戻る」対象の看護を理解できる。 | 1) 産褥期の定義 2) 産褥期における看護師の役割 3) 産褥の生理 4) 産褥のアセスメントと看護 5) 産褥の日常生活とセルフケアを支える看護 6) 母親になることへの看護 7) 母乳育児と看護 | | | |
| 4～7 | | | | | |
| 8～9 | 2. 「子どもが育つ」の対象の看護 | 1) 新生児期における看護師の役割 2) 新生児の生理 3) 新生児のアセスメント 4) 新生児のケア | | | |
| 10～14 | 3. 「妊娠を継続する」「非妊娠時（妊娠前）の身体に戻る」「子どもが育つ」対象の看護技術 演習 | 演習 1) 診察時の諸計測 2) 褥婦の看護技術 3) 新生児のバイタルサイン 4) 新生児の看護技術（沐浴・抱き方） | | | |
| 15 | 4. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | テキスト・参考書等 | | | | |
| 筆記試験 | 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院 | | | | |
| 実務経験 | 助産師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 母性看護学方法論III | 担当講師名 川越 真衣 | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 |
|---|--------------------------|---|--------------|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| 1. 「子どもを産む」ことに障害のある対象の看護について理解できる。 2. 「子どもが育つ」ことに障害のある対象の看護について理解できる。 3. 事例を通して正常経過にある対象の看護の展開ができる。 | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習内 容 ・ 方 法 | |
| 1 ~ 7 | 1. 「子どもを産む」ことに障害のある対象の看護 | 1) 妊娠期の異常と看護のポイント 2) 分娩期の異常と看護のポイント 3) 産褥期の異常と看護のポイント 4) 特殊なニーズをもつ妊娠婦と家族への支援 | |
| 8 ~ 9 | 2. 「子どもが育つ」ことに障害のある対象の看護 | 1) 新生児の異常と看護のポイント 2) 周産期医療体制 | |
| 10 ~ 14 | 3. 正常経過にある対象の看護の展開 演習 | 1) ウエルネス志向とは 2) 看護の展開の実際 演習：正常経過をたどる褥婦・新生児の事例を用いて展開する | |
| 15 | 4. 終講試験及び振り返り | 1) 終講試験 2) 学習のまとめ | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 筆記試験 | | 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院 | |
| 実務経験 助産師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | |
| 備 考 | | | |

| 授業科目 母性看護学実習 | 担当講師名 担当教員 1人/1G | 単位数 2 単位 時間数 90 時間 | 対象学年 3 年次 | | |
|---|---|--|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 妊娠期の特徴を理解し健康診査、健康に関する指導の必要性と方法が理解できる。 2. 分娩・産褥期及び新生児期の特徴を理解し対象に応じた援助ができる。 3. 母性実習を通して、生命の尊厳を認識でき、自己の母性（父性）観を深めることができる。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| | <p>臨地実習</p> <p>1. 病院（外来）</p> <p>2. 病院（病棟）</p> <p>3. 実践外活動</p> | <p>1. 妊娠期の特徴の理解、健康診査、健康に関する指導の必要性と方法の理解</p> <p>1) 妊娠経過に伴う生理的変化 2) 分娩予定日の算出 3) 妊娠の早期診断法の種類と方法 4) 妊婦のマイナートラブル 5) 健康診査の目的 6) 診察に伴う介助 7) 妊娠中に行われる検査・計測 8) 母親学級への参加 9) 保健指導の見学 10) 妊娠の届出 11) 妊婦一般健康診査受診表の活用場面の見学 12) 母子健康手帳の活用</p> <p>2. 分娩・産褥期及び新生児期の特徴の理解と対象に応じた援助</p> <p>1) 分娩経過の観察 2) 分娩経過に応じた日常生活の援助 3) 産痛緩和法 4) 産婦の精神的慰安 5) 出産場面への立会い 6) 褒婦の観察 7) 看護過程の展開 8) 出生直後の新生児の観察 9) 生後日数に応じた新生児の観察 10) 新生児の援助</p> <p>3. 地域における母子ケアについてフィールドワークを行う。</p> <p>4. 母性実習を通して、生命の尊厳を認識でき、自己の母性（父性）観を深める</p> | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 実習評価表に基づいて評価する | | 母性看護学実習要項 関連する文献 パーカーフェクト臨床実習ガイド 母性看護 | | | |
| 実務経験 看護師・助産師として培った豊富な経験をもとに指導を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

精神看護学

| 授業科目 精神看護学概論 | 担当講師名 櫛木 恵 | 単位数 1 単位 時間数 15 時間 | 対象学年 1 年次 | | |
|--|----------------------------------|---|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 精神看護の目的と意義を理解する。 2. 人間の心のはたらきとパーソナリティについて理解する。 3. 精神保健医療福祉の歴史と法制度を理解する。 | | | | | |
| 回 数 | 單 元 | 学習内 容 ・方 法 | | | |
| 1～2 | 1. 精神看護の目的と意義 2. 精神保健の考え方 | 1. 精神看護学で学ぶこと 1) 「心のケア」と現代社会 2) 精神看護とその課題 3) 精神障害の体験と精神障害 4) 精神看護学でなにを学ぶのか 1. 精神の健康とは 2. 精神障害のとらえ方 3. ストレスと健康の危機 4. 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 5. 回復(リカバリー)を支える力 | | | |
| 3～5 | 3. 人間の心のはたらきとパーソナリティ | 1. 人間の心の諸活動 2. 心のしくみと人格の発達 | | | |
| 6～7 | 4. 社会のなかの精神障害 | 1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医学・精神医療の流れ 3. 精神障害と文化 4. 精神障害と社会学 5. 精神障害と法制度 | | | |
| 8 | 5. 終講試験及び振り返り | 1. 終講試験 2. 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 課題達成状況 | | 精神看護の基礎 医学書院 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 精神看護学方法論 I | 担当講師名 櫻木 恵 (10 H) 元脇 充 (20 H) | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 | | |
|---|-------------------------------------|---|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 関係のなかの人間を理解できる。 2. 本来の意味でのケアを考え理解できる。 3. 地域における精神保健と精神看護を理解できる。 4. リエゾン精神看護について理解できる。 5. 看護師のメンタルヘルスについて理解できる。 | | | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | | | |
| 1 ~ 2 | 1. 関係のなかの人間 | 1. 全体としての家族 2. 人間と集団 | | | |
| 3 ~ 5 | 2. ケアの人間関係 演習 | 1. ケアの前提 2. ケアの原則 3. ケアの方法 4. 関係をアセスメントする 1) プロセスレコードを用いた演習 5. 患者一看護師関係における感情体験 6. 対処のむずかしい場面 7. 医療の場のダイナミクス | | | |
| 6 ~ 10 | 3. 地域における精神保健と精神看護 | 1. 精神障害をもちらながら地域で暮らす人を支える 2. 地域で生活するための原則 3. 生活を支えるための社会資源・サービス 4. 地域での看護の実際 5. 学校における精神保健と精神看護 6. 職場における精神保健と精神看護 | | | |
| 11 ~ 12 | 4. リエゾン精神看護 | 1. 身体疾患をもつ患者の精神保健 2. リエゾン精神看護とその活動 3. リエゾンナースの活動の実際 4. 看護師の精神的健康への支援 | | | |
| 13 ~ 14 | 5. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス | 1. 看護師の不安と防衛 2. 感情労働としての看護 3. 看護師の感情ワーク 4. 看護における共感の光と影 5. 感情労働の代償と社会 6. レジリエンスを高める | | | |
| 15 | 7. 終講試験及び振り返り | 1. 終講試験 2. 学習のまとめ | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 | | 精神看護の基礎 医学書院 | | | |
| 課題達成状況 | | 精神看護の展開 医学書院 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| 授業科目 精神看護学方法論 II | 担当講師名 久松 美佐子 | 単位数 1 単位 時間数 30 時間 | 対象学年 2 年次 |
|---|--|--|--------------|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| 1. おもな精神症状を理解する。 2. 精神障害の分類と検査を理解する。 3. 主な疾患の特徴と治療を理解できる。 4. 精神に障害をもつ人の看護の基本を理解できる。 5. 患者一看護師関係成立発展について理解できる。 6. 精神の健康増進・回復の援助方法を理解できる。 7. 再構成が理解できる。 8. 精神科看護の場とそれぞれの看護を理解できる。 9. 精神に障害をもつ人の生活の特徴と家族を含めた看護を理解する。 | | | |
| 回数 | 単 元 | 学習内容・方法 | |
| 1～2 | 1. おもな精神症状 | 1. 精神を病むことと生きること 2. 精神症状論と状態像 1) 症状とはなにか 2) さまざまな精神症状 思考、感情、意欲、知覚、意識、記憶の障害、局在症状 | |
| 3～4 | 2. 精神障害の診断と分類 | 1. 診断と疾病分類 2. 主な臨床検査及び心理検査 | |
| 5～8 | 3. 主な疾患の特徴と治療 | 1. 主な精神疾患の特徴 1) 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 2) 気分（感情）障害 3) 神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 4) 解離性障害 5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 （性同一性障害）6) パーソナリティ障害 7) 器質性精神障害 8) 精神作用物質使用による精神・行動の障害 9) てんかん 10) 神經発達障害群 11) 習慣および衝動の障害 12) 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 （自殺、ひきこもり、不登校、自傷行為等） 2. 主な治療 1) 精神科における治療 2) 薬物療法・電気けいれん療法 3) 精神療法 4) 家族療法 5) 環境療法・社会療法 | |
| 9～14 | 4. 精神に障がいをもつ人の看護の基本 5. 患者一看護師関係成立発展 6. 精神の健康増進・回復の援助 7. 援助過程の再構成 8. 精神科看護の場と実践 9. 精神に障がいをもつ人の生活の特徴と家族を含めた看護 | 1. 回復の意味 リカバリ 回復のビジョン 2. 入院治療の目的と意味 3. 治療的環境をつくる 4. 治療共同体、双方向のコミュニケーション 5. 治療的環境と看護師 6. 安全を守る 1) リスクマネジメントの考え方、方法 2) 緊急事態に対処する 7. 身体をケアする 1) 身体にあらわれる心の痛み 2) 精神療法としての身体のケアと実際 3) 睡眠の援助 4) グループアプローチ 8. サバイバーとしての患者とそのケア 1) 受け入れがたい行動を示す患者たち 2) 心的外傷への着目 3) 回復への道程 | |
| 15 | まとめ・終講試験 | 1. 終講試験 2. 学習のまとめ | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | |
| 筆記試験 | | 精神看護学の基礎 精神看護学の展開 | 医学書院 医学書院 |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う | | | |
| 備 考 | | | |

| 授業科目 精神看護学方法論III | 担当講師名 専任教員 | 単位数 1 単位 時間数 15 時間 | 対象学年 3 年次 | | |
|---|----------------------------------|---|--------------|--|--|
| 学習目標（ねらい） | | | | | |
| 1. 精神障害のある対象の心の健康上の課題を総合的にアセスメントし、対象の特性に応じた看護の展開について理解できる。 | | | | | |
| 回数 | 單 元 | 学習内容・方法 | | | |
| 1～2 | 1. 精神看護の特性と援助の考え方 | 1. 精神看護における援助の考え方、対象への働きかけの方向性について理解する。 2. ヘンダーソンの看護論に基づき、基本的欲求の充足力のアセスメントと自立の考え方を理解する。 | | | |
| 3～5 | 2. 身体表現性障害をもつ人の特徴に合わせた看護展開 演習 | 1. 身体疾患の根拠がないにもかかわらず、繰り返し身体症状を訴える身体表現性障害の事例展開を行う。 1) 情報の整理・アセスメント • どのような身体症状の訴えがあるか • 訴えの特徴 • 訴えがあることによるADL、IADLへの影響 • 過去、現在、未来の対人関係への影響 • 訴えがあることによる社会生活への影響 • どのような生きづらさがあるか 2) 看護計画の立案 • 身体表現性障害では、痛みなどが身体愁訴として現れ、その自覚症状により日常生活が妨げられているため、どのような看護援助が必要かを考える。 | | | |
| 6～7 | 3. 検討・まとめ・発表 | 1. 個人でワークした内容を検討し、他者の発表を聞くことで、身体表現性障害者への看護の理解を深める。 1) グループ内で検討する。 2) グループ内でまとめた看護の展開を発表する。 3) 講義と学生間の意見交換を基に個々の修正を行う。 | | | |
| 8 | 4. 終講試験 | 1. 終講試験 知識確認として一般・状況設定問題等の筆記試験を行う。 | | | |
| 評価方法 | | テキスト・参考書等 | | | |
| 筆記試験 | | 精神看護の基礎 医学書院 | | | |
| 課題達成状況 | | 精神看護の展開 医学書院 | | | |
| | | 関連する文献 | | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う | | | | | |
| 備 考 精神看護学概論、精神看護学方法論他、援助関係を構築するための理論や、既習の学習を引き出しながら学びましょう。 | | | | | |

| 授業科目 精神看護学実習 | 担当講師名 担当教員1人/1G | 単位数 2 単位 時間数 90 時間 | 対象学年 3 年次 |
|--|---|--|--------------|
| 学習目標（ねらい） | | | |
| 1. 精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人の看護を実践するための基礎的能力を養う。 | | | |
| 回 数 | 单 元 | 学習 内 容 ・ 方 法 | |
| | <p>臨地実習</p> <p>1. 精神科病棟実習</p> <p>2. 精神科デイケア実習</p> | <p>1. 病棟実習では1人の患者を受け持ち、情報のアセスメント、問題点の抽出、ケア計画の立案といった一連の過程を学習する。</p> <p>2. 受け持ち患者の発達段階の特徴や病態生理につながる事前学習を行う。</p> <p>3. 記録用紙を用いて受け持ち患者の情報を整理し、対象理解を深める。</p> <p>4. 受け持ち患者の問題状況をアセスメントし、問題解決について患者と一緒に考えることができる。</p> <p>5. 日々の看護実践を振り返り、日々の記録またはプロセスレコード用紙にまとめる。</p> <p>6. デイケア実習では、日常の生活をともに過ごし、関わりを日々の記録又はプロセスレコード用紙にまとめて振り返りをする。</p> <p>7. 実習期間中必要に応じてカンファレンスを行い学びを深める。</p> | |
| 評価方法 | テキスト・参考書等 | | |
| 実習評価表 出席状況 実習態度 実習レポート 自己学習などを踏まえ総合的に評価する | 精神看護学実習要項 関連する文献 | | |
| 実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う | | | |
| 備考 | | | |